

# 日本山岳会 越後支部報

## 第 37 号

令和5年6月23日

発行 公益社団法人日本山岳会越後支部

発行者 後藤 正弘

新潟県上越市新光町2-1-40

TEL・FAX 0255-12-7561

広報委員長 諏訪 恵一

## 私の一枚

大好きな山の先輩方と念願の雪の守門岳に行った時の一枚です。真っ青な青空と雄大な大雪庇！そして下山に歩いた縦走コースで、この素晴らしい風景に出会いました。

目の前に広がる山々の大パノラマと雪庇のコラボです。身体中が震えるくらい感動しました。今まさに自分がこの場所に立っている。それが嬉しくて嬉しくて。

山登りをされていて良かったなと心から思えるひとときでした。

撮影者 久保田 千歳



東洋一の大雪庇！守門岳の大パノラマ！

## 登山文化の継承と次世代会員の育成を！

支部長 後藤 正弘

令和5年度越後支部総会で第11代支部長の指名を受けました。日本山岳会118年の歴史において2代目会長に高頭仁兵衛翁を輩出し、戦後いち早く藤島玄初代支部長のもとで越後支部が設立されました。歴史と伝統に裏打ちされた重厚な人材が長年にわたり新潟県登山界をリードしてきました。

しかし、その組織も高齢化が進み若年層の構成が極端に少ない危機的状況にあります。私の任務は「越後の登山文化を継承しながらも、次世代への橋渡しをすること」にあると考えています。

正確に言うなら、すでに諸先輩により積み上げられた活動を強化することにあります。平成24年（2012年）4月1日の日本山岳会の公益社団法人化は、平成20年（2008年）末から施行され、猶予期間は平成25年（2013年）までの5年間で定められました。このことが「何もしない支部」を標榜してきた越後支部の、支部活性化をめざす大きな転機となりました。

ここから支部活性化に向けて動きが活発化します。新制度施行直後（平成21年5月）から、組織変革に対応した支部会則・内規や専門委員会創設等組織活動の骨格づくりを進めた山崎幸和第7代支部長。

その後、同好会の設立、公募登山などで新入会員増に力を尽くした橋本正巳第8代支部長、「日本三百名山越後支部担当21座

登頂（創立70周年記念事業）、全国支部懇談会越後支部主幹、「山の日」記念事業として糸魚川世界ジオパーク子ども登山教室や高頭祭などの事業を推進した遠藤家之進正和第9代支部長。

そして新型コロナ禍の困難な時代において、YOUTH委員会、古道プロジェクト設立、会員募金による高頭仁兵衛翁寿像碑修復、「写真で見る高頭祭のあゆみ（2020）」発刊、弥彦・国上エリアの持続可能な利用を促進するプロジェクトなどの実績を残した桐生恒治第10代支部長と、それぞれ個性的なリーダーのもとで一歩一歩継続して14年間着実に歩んできました。その成果は活動の変化や新入会員増となつてあらわれてきています。

しかし、まだ途上にあることは否めません。現在65歳以下の支部会員は27名で20代会員は皆無です。この度、65歳以下支部会員から7名が理事を担ってもらうことになりました。時代が刻々と変化する中で、伝統を重視しながらも時代に即応した柔軟な発想も組織存続のために必要となつていきます。

これまでの組織活動を基礎にして、次世代の意見を取り入れながら、力を合わせて支部活性化をさらに推進したいと思っています。皆様のご協力をお願い致します。

地域の山

土埋山 (6960.5m) 一等三角点補点の山

多田 政雄

土埋山は阿賀町津川の奥、会津との県境にある。藤島玄著の越後の山旅上巻に案内があるが他にはあまり見当たらない。交通の便も悪く馴染みの薄い不遇の山ではあるが、一等三角点補点の山であり展望は良く静かで一部の岳人には人気のある山だ。

登山口は、磐越道津川ICで高速を降り国道49号会津方面に右折、津川の町を過ぎてしばらく進み見返大橋を渡る。右側下に八木山集落が見え左側に吉田屋酒店がある。集落を過ぎて直ぐ右側に旧津川カントリーのゴルフ場の看板が見え、八木山集落への会津方面からの入口道路へ右折し直ぐに標高244m地点で左折し田沢集落への道を行く。383m地点の峠を越え下りきると昔の懐かしさの漂う田沢集落289m地点に着く。集落を通過し山の中を進み356m地点を過ぎると右手の楡林の伐採地跡の少し下に広場がありここに駐車できる。

そこから歩き始めて道路に戻り少し先に進むと右手に電柱があり番号プレートが貼ってあり36番が登山口になる。約410m地点左側に土埋山登山道の木製標識柱がある。その杉林の下を抜け右側に杉林を見ながら尾根に取付くが急登で滑りやすくロープが1本下がっている。ここからは登山道もはっきりしてきて、左右に楡の木



林の尾根をドンドン登って行くと530m地点で北方面に蒜場や飯豊連峰と南側には御神楽岳が見えてくる。ここまで登山口からノンビリで40分位。一休みして650m地点から尾根が右に曲がり少し鞍部になっている付近より両側に笹が生えており少し歩きにくい所があるが登山道ははっきりしており問題は無く、休憩地点からはノンビリで40分位で山頂に着く。

山頂は広くはないが360度の展望が開けており、北側には飯豊連峰と南側には御神楽と会津との県境の山々や日本平山からの川内の山々、また福島方面は磐梯山や吾妻連峰などが見える。山頂広場の南方面に少し先に行くと南西面に大きく崩れた跡がある。昔の地震で地滑りが発生した場所

山名の「土埋つちうずみ」の由来となった地形である。

低い灌木があるので登山シーズンとしては、春先の高い山に残雪の有る頃と秋の紅葉の頃が素晴らしいと思う。

山頂で景色を堪能したら往路を下山する。急なところは濡れているとスリッパしやすいため注意が必要である。駐車場までは、ノンビリで45分位。(駐車場には何年前から廃車が1台あり)

●帰路温泉に入りたい方は津川で諏訪峠方面に進むと津川温泉があり入湯料500円。アルカリ性単純温泉で肌がツルツルする良い温泉です。

写真は土埋山山頂からの蒜場山から大日岳に続く飯豊連峰です。今年の4月10日撮影。

上高地と西穂高・丸山山行

フォト・スケッチ同好会 遠藤 俊一

フォト・スケッチ同好会では、上高地と西穂山荘付近の冬景色を切り取ろうと計画、10名が参加した。

令和5年2月3日、車3台に分乗して上高地への中継地となっている沢渡へ。今日の宿泊は、沢渡から上高地へのバス乗り換え駐車場の前にある木造2階建の小さな建物である。

2月4日、6時起床、8時出発としていたが、もう4時頃から起きたして、ガサガサごそそ朝食や出かける支度が始まった。予約しておいたタクシーも早く来たの



で、早々に出発、釜トンネル入り口に向かう。

釜トンネルゲート前を7時46分出発した。釜トンネルは長さ1300m余、その先の上高地トンネル600mと合わせ約2000mの登りは、結構つらい登りであった。除雪された道路を上高地ホテルまで進む。ここから、大正池湖畔の道へ入り、田代池、田代橋へと向かう。

生憎の天候で、周囲の山々は雲の中、白と灰色の墨絵の世界である。変化のない雪原を歩くこと1時間、ようやく田代橋に着いて小休止。依然晴れる気配はない。10時45分河童橋に到着。残念ながら前穂から奥穂へかけての雄大な山並みは雲の中。

ここで昼食として、11時36分に下山開始。行くときにきつかったトンネルも下るのは早い。13時54分に到着。予約のタクシーで沢渡へ向かう。そして、我々の車に乗換え

て、今日の宿、奥飛騨温泉郷へ。

2月5日、昨日とは打って変わって快晴。ロープウェイ改札口は行列ができていて、順番を待つしかない。山頂駅を9時50分出發。青空と強い日差しではあるが、密生した杉林の中の緩い勾配の道のアップダウンを繰り返しながら登る。標高2200mくらいから西穂山荘(2370m)への急登となる。ここでアイゼンを装着して、急登を登り切って山荘へ11時30分に到着する。冬山の展望の醍醐味、澄み切った青空のもと、真っ白な笠ヶ岳、抜戸岳、御嶽山がきれいだ。

ここで昼食をとり、眺望の開ける丸山(2452m)へ。2420mくらいまで急登であるが、あとはだらだら歩き。丸山ピークを目指して進む。最高の日和の中、西穂高岳の雄姿を見ながら稜線漫步だ。ピークからは前穂、西穂、樺沢、抜戸、笠と一望できた。北アルプスの雄大な展望を楽しむことができた。

### 「鼓ヶ倉山」山行に参加して

伊藤香代子

当初3月26日の予定が雨天の予報にて25日に変更され、奥只見シルバライン第11号トンネル付近に駐車し、参加11名で7時20分アイゼンを装着し登山開始しました。

募集時より渡辺さんが「誰でも行かれる簡単な山じゃないぞ。」と話されていて今まで全く知らなかった山であり、期待と不安の思いで参加しました。私が想像してい



たよりも雪が少なく、尾根は藪ありクラックありでルート作業をしていただきました。

津久の岐山9時着、尾根が広く気持ち良い雪面を歩き、鼓ヶ倉山を見る事ができました。800m付近では急斜面を一步一步慎重に進んで行きましたが、9時30分登山終了。下山時、ピッケルとアイゼンでルート作業し、ザイルを設置してもらいハーネス装着で降りました。私はハーネスを所有していても使い方をすっかり忘れていて、装備の仕方を一から教えて頂き大いに反省しました。その節は大変お世話になりました。ありがとうございました。津久の岐山で昼食を摂っていると、時折、晴れ間もあり毛猛山塊を見る事ができ、下山時には今年初のイワウチワが癒してくれました。秋には再チャレンジするという方もおられました。下山後、皆さんはテント泊されるとの事、時間も早かったので堀ノ内の御嶽山に寄り



ました。山頂からは越後三山の眺望が素晴らしい。ブナ林が美しい里山ですが、当日は望めなかったのが後日の楽しみとします。今日は自分の未熟さを反省させられた山行でした。

### 八ヶ岳中信高原国定公園 残雪の蓼科山2530m

山行委員会 渡辺 茂

日時：2023年4月1日(土)～2日(日)  
参加者：19名

今回の企画は支部会員との親睦交流と越後支部会員拡大も図りたく公募登山として、手頃な山を計画、大勢の参加を頂き実施することが出来ました。

4月1日(土) 長岡石動駐車場9時40分集合、今回はマイクロバスで行く山旅である。新井PAで上越の方々と合流し総勢19



名である。今日の子定は女神乃茶屋前の登山口を確認し、宿泊先の蓼科山に行くのみである。

今回の登山では岩稜帯の通過や凍結した登山道でアイゼン歩行もあることから、車内でスリングによる簡易チェストハーネスの作り方の練習も行った。数年振りの蓼科山であるが、駐車場にはトイレが設置され、さらに駐車場は広くなったようで15台ほどが停められていた。スズラン峠からは青空の中、八ヶ岳連峰を見ることができた。早速、宿に到着すると目の前に、明日登る雪を覆った蓼科山を見ることができた。時間も早いことから入浴や女神湖周辺の散策と各々の自由行動とした。夕食交流会は自己紹介の後、山談議に話が盛り上がり、楽しく賑やかな宴となったが、明日は6時半出發であることから早々に就寝とした。

4月2日(日) 朝食後、6時半登山口に

向け出発。7時頃、登山開始。最初の笹原の緩やかな登りを終えると平坦地となり、その後はジグザクの急坂を登りきると針葉樹林帯の平坦地となった。ここで上着を脱ぎ小休止とした。蓼科山は森林限界までは針葉樹林帯の日陰や岩稜帯で凍結した登山道である。標高2000m付近からアイゼンを装着。所々、雪の無い岩稜帯もあり、アイゼンでつまずかないよう注意しながら進んだ。カラマツとダケカンバが混合する樹林帯から円錐形の蓼科山を見ることが出来た。森林限界からはゴツゴツした岩場でアイゼンを外しクサリと黄色のペンキに従い歩を進めると雪道となり、右側に山頂ヒュッテが見えると山頂は直ぐであった。山頂からは槍ヶ岳や穂高、鹿島槍ヶ岳や白馬岳、西天狗、東天狗を見ることが出来たが、八ヶ岳連峰は雲の中であった。山頂で記念写真を撮り、1時間ほどの休憩の後、



下山とした。森林限界からアイゼンを装着しスリップに注意しながら降り、怪我も無く予定時間に登山口に着くことが出来た。

## 平日トレッキング「鳥屋山」

佐藤レイ子

春と言えばカタクリで有名な西会津の鳥屋山です。4月21日、会津在住の佐竹さんと荻野駅で待ち合わせ、登山口まで案内していただきました。

鳥屋山は一等三角点の山で眺望に優れ、標高は581mとそれほど高くないが、途中に第一見晴台と第二見晴台があり、その度に急な階段をアップダウンしなければならず、楽に登らせてくれません。しかし、さすが花の山、登り始めてすぐにアズマイチゲやカタクリの群生が現れ、芽吹いたば



ヒゴスミレ

白花カタクリ

かりの新緑と相まって心が洗われる思いです。稜線にはマキノスミレ、センボンヤリ、ヒゴスミレなど、花好きな方が多く、足がなかなか進みませんでした。

ようやく辿り着いた山頂はほぼ貸切状態。天気に恵まれ、楽しい山歩きを有り難うございました。

## 平日トレッキング「三角点山」(576.5m)

高辻 謙輔

今年最初の平日トレッキング。関川村の三角点山は光兔山や朴坂山のように顕著な



姿ではありません。村の西から東に向かってなだらかな尾根が、ゆったりと伸び上がっています。

五月晴れの5月11日。清流を徒渉してから、かつては村の炭焼き道だったという赤坂コースから登りました。ブナの若葉の木漏れ日を浴びながら歩きます。シューマンの歌曲集「詩人の恋」の第一曲、「こよなく美しい月、5月♪」がどこからか聞こえてくるような。

足下のチゴユリやギンリョウソウに目をやりながら2時間で到着。山頂はブナの木に囲まれた小さな広場。参加者一行は円陣を作って憩い弁当をひろげます。入念な下準備をして頂いた平田大六講師から三角点山をめぐる人、道、歴史の話聞いた後、平ノ木平コースを下山、昨年8月の豪雨で



大荒れの林道を小1時間歩いて駐車場に着。その後は登録有形文化財の平田邸と、近くの藤島文庫を見学。充実した1日でした。

### 「越後支部アルパインスキー同好会設立のご案内」

玉木大二朗

本年3月に開催された令和4年度第2回越後支部役員会（理事会）において、越後支部アルパインスキー同好会の設立が承認されました。同好会の目的はスキーを媒介として支部会員の交流を深め、スキー技術の向上及び雪山登山における山岳遭難防止対策の知識並びに技術の習得を図ることとしています。設立時の会員数は廣井博行同好会長以下12名です。実質の活動は来シーズンの冬季から予定しています。ゲレンデスキー、山スキーを問わず広くスキーを行われる支部会員皆様の参加をお待ちしています。

連絡先：玉木大二朗  
携帯電話：090-8723-4480  
e-mail: tamai421@m2hp.ne.jp

### 山行委員会

#### 飯豊連峰の盟主 飯豊本山 (2105E) 登山のご案内

今回は磐梯朝日国立公園内に連なる飯豊連峰、山小屋宿泊登山を計画しました。飯豊連峰はブナとダケカンバが美しい林、さらに残雪とお花畑が広がる稜線へと山稜を

連ねる奥深さが魅力の山です。

1 期 日 2023年7月1日(土)

2日(日)

2 集合場所 高速道路鳥原バス停

3 登山ルート 駐車場 5時

7/1(土)

新潟〜津川IC〜弥平

四郎登山口〜松平峠〜三国岳〜切合

小屋(泊)

7/2(日) 切合小屋〜飯豊本山〜

切合小屋〜弥平四郎登山口〜新潟

4 参加対象 日本山岳会越後支部会員で

山岳保険加入者および支部会員が推薦

する方

\*アイゼン6本以上装着およびシユラ

フ持参可能な方

5 募集人員 先着20名

6 参加費 2,000円(交通費、宿

泊費別)

詳細は越後支部ホームページをご覧ください。なお、既にホームページでも案内しているため定員に達している場合はご容赦ください。

#### 第66回高頭祭開催と弥彦大平園地清掃協力のお祝い

今年度第66回高頭祭は、7月25日(火)午後2時30分から弥彦山大平園地で開催します。高頭仁兵衛翁寿像碑前での献花・献酒のセレモニーに続き、記念講演は、日本山岳会坂井広志副会長から『日本山岳会120周年記念事業「引き継がれる山岳祭プロジェクト」について』と題してお話を

していただきます。高頭祭は、上高地ウエストン祭に次ぐ伝統と実績ある山岳祭であり、支部会員皆様多数の参加をお待ちしています。

高頭祭終了後、弥彦本山奥の院に向かい午後5時から安全登山祈願祭、その後午後6時頃より第68回弥彦山たいまつ登山祭が行われます。たいまつ登山参加希望者は、届け出が必要となるため7月5日までに、小山一夫事業委員長(TEL:090-52197432)に連絡願います。

また自然保護委員会では、高頭祭開催前の午前8時頃から、弥彦山スカイライン大平園地登り口からの登山道草刈りと寿像周辺の清掃を行います。遠来からの多くの高頭祭参加者を気持ちよくお迎えするため、支部会員皆様に作業協力依頼のお声掛けさせていただきます。その際に奉仕活動へのご理解をいただき協力をお願いします。問い合わせは、小野寺昭彦自然保護副委員長(TEL:090-53325-2386)です。

### 山行委員会

#### 初雪山(1610E) 登山のご案内

初雪山は、飛騨山脈の富山県朝日町にある山、梅海新道の朝日岳から犬ヶ岳に向かうと左側に大きく聳える山です。山頂へは積雪期か残雪期の登山に限られていましたが2007年越戸峠からの巡視路が整備され、雪の無い季節にも登れるようになった山です。

1 期 日 2023年10月7日(土)

9日(月)

2 集合場所 親不知観光ホテル駐車場

3 登山ルート 14時

10/7(土)

新潟〜朝日町キャンプ

場(テント泊)

10/8(日) 朝日町キャンプ場〜越

戸峠〜初雪山(往復) (健脚向き

歩行11時間)

(宿泊は親不知観光ホテルを予定)

10/9(月) 朝日町〜新潟

4 参加対象 日本山岳会越後支部会員

で山岳保険加入者、

5 募集人員 先着10名

6 参加費 2,000円(交通費、宿

泊費別)

定員に達している場合はご容赦ください。なお、詳細は8月頃に越後支部ホームページに掲載予定です。当初計画の日程は10/21-22の予定でしたが、日程を変更しました。

### 令和5年度

#### 越後支部総会開催される

5月27日に行われた令和5年度越後支部総会において、支部役員の変更が行われ、役員の内選により支部三役及び委員長が決定承認されました。その後、各副委員長と専門委員についての指名と了解を得ました。

令和5・6年度支部役員体制について

5月27日支部総会にて、次の新役員が決定されました。

支部長	後藤 正弘 (上越市)
副支部長・山行委員長	渡辺 茂 (新潟市)
副支部長・自然保護副委員長	井口 礼子 (見附市)
事務局長・総務委員長	玉木 大二郎 (新潟市)
理事 事・総務副委員長	佐藤 博 (新潟市)
理事 事・YOUTH委員長	知野 勇人 (新潟市)
理事 事・事業委員長	小山 一夫 (新潟市)
理事 事・広報副委員長	佐藤 高晴 (新潟市)
理事 事・広報副委員長	多田 政雄 (新潟市)
理事 事・事業副委員長	佐藤 レイ子 (新潟市)
理事 事・山行副委員長	多田 和広 (新潟市)
理事 事・YOUTH副委員長	大場 勲 (新潟市)
理事 事・山行副委員長	松野 敬 (佐渡市)
理事 事・自然保護委員長	廣井 博行 (柏崎市)
理事 事・広報委員長	春日 良樹 (妙高市)
理事 事・県山協委員長	諏訪 恵一 (長岡市)
理事 事・YOUTH副委員長	松井 潤次 (小千谷市)
理事 事・古道調査PJ T	和田 甲臣 (長岡市)
理事 事・事業副委員長	佐久間 雅義 (新発田市)
理事 事・自然保護副委員長	小林 頼雄 (弥彦村)
理事 事・山行副委員長	高畑 悦武 (燕市)
監事	佐竹 信幸 (会津若松市)
監事	井口 光利 (見附市)
顧問	立入 清 (上越市)
顧問	桐生 恒治 (見附市)
顧問	鶴本 修一 (糸魚川市)

今回役員を退任された方々は、事務局長小泉良夫様、理事の井春文様、石山政雄様、五十嵐恵美子様、顧問の遠藤家之進正和様、阿部信一様です。長い間支部業務にご尽力いただき感謝申し上げます。

なお、遠藤家之進正和様は、支部会則と内規に基づき支部名誉会員として推薦され、理事会で承認されましたのでお知らせします。

また、専門委員として、公募登山担当滝沢信子氏 (新潟市) と公募医療担当根津洋子氏 (小千谷市) をお願いしました。

スノートレッキング同好会長は松井潤次氏 (小千谷市)、フォト・スケッチ同好会長は遠藤俊一氏 (新潟市)、アルパインスキー同好会長は廣井博行氏 (柏崎市) です。

事務局からのお知らせ

●支部会員動向 (2023年1月〜4月)

- 1 新入会員 佐野 哲郎 (17040)
- 2 退会会員 渡邊 幸夫 (12096)

●支部会員総数 (2023年4月末日現在)

支部会員 (準会員含む) 160名  
支部会友7名

広報委員長に就任して

諏訪 恵一

この度、広報委員長に就任しました諏訪恵一です。よろしくお願いいたします。

現在、広報委員会では年3回の支部報発行と随時のホームページの更新を担当しております。

支部報では、トップページで「私の一枚」と題して会員の皆様の自慢の力作と一言コメントを、また、巻頭言として時々的重要な話題を取り上げています。また、記事面では、「地域の山」シリーズでガイドブックにはなかなか載らないが味のある山を紹介したりして興味を持っていただいていることと思いますが、その他の事業や行事の案内および参加募集並びに報告についてはホームページの迅速性や内容の詳細度合では敵わない状況です。

また、その時間的ずれが原因で、支部報を見て山行申し込みをした際に既に定員に達しているというような事態も発生しているようです。

今後の課題として、支部報の内容をどのように刷新するか、また、ホームページの更新を迅速に会員の皆様にお伝えするにはどうするかなどに取組み、時代に合った広報委員会にしていきたいと思っております。また、支部報もホームページも会員の皆様からの情報が命ですので、今後ともご協力のほどお願いいたします。

編集後記

最近、ライチョウの保護活動をしている支部会員の方から、その生息を脅かす大きな要因の一つは地球温暖化だとの話を聞きました。温暖化では平均気温が1℃上昇すると営巣の適地が150m高い位置に移動することにもなり、何とか絶滅を防ごうとの努力が続けられています。

温暖化対策には、このような、温暖化しってしまった現実などの中で被害の軽減を目指す、温暖化への「適応」策と、そもそも温暖化を抑制することを目指す「緩和」策があります。「緩和」策の方では、2050年カーボンニュートラル実現には、専門家だけでなく、私たち山やも、できることはほんの小さな事かもしれませんが、一市民として、自然の中での活動においても「脱炭素」についても考え、実現していくことが必要だと思えます。

(佐藤高晴)

